

# 相談事例

ID: 01-03-010

## 相談タイトル

新築引渡しを受けた住宅の各所施工の状況について

### Q: ご相談内容

- ①犬走りコンクリートの高さが40cmあるが、施工業者は法律で高さが決まっていると言うが本当なのか。犬走りコンクリートを打つと地震に強くなると施工業者は言うが本当なのか。
- ②基礎コンクリート（立上がり）に細かい気泡がたくさん発生しているが問題ないのか。
- ③玄関前床（土間コンクリート）に通じるスロープを当初から設置予定していたが、スロープを後から打設することとなったが、段差ができる等問題ないのか。
- ④ダイニングキッチンの天井を勾配天井にしたことが原因か、台所の音が仕切られている別の部屋にかなり大きな音で聞こえてしまうが対処方法はあるのか。
- ⑤施工業者が信頼できず、各所不具合と考える箇所を現地確認してほしいが可能か

### A: 回答

①犬走り高さが法律で決まっていることはないと考えます。軟弱地盤等で、基礎底版の面積を多く確保するなどの計画を持って、当初から基礎と一体に犬走り部のコンクリートを打設したのであれば、建物を支持する面からは有効なこともあると考えますが、一般的には、後打ちの犬走りコンクリートが地震に強いとは言えません。②基礎コンクリートを打設するときには仮枠内に十分にコンクリートが充填されるよう、突き固めをよく行いますが、多くの気泡ができているとすると、施行の精度（出来映え）はあまり良くなかったかもしれません。大きな「じゃんか（空洞）」等でなければ、見栄えの問題となりますので、打ち放し面の補修で対応できると考えます。③スロープ打設については、鉄筋等を入れ一体的にコンクリート打設されていないと、打ち継ぎ部分でクラック（ひび割れ）の発生の原因となります。④間仕切り壁や天井の材料を症状にあった形で、吸音や遮音効果のあるものに替えることも方法としては考えられます。⑤群馬県建築士事務所協会「住宅アドバイザー制度」があります。